

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年4月9日】第118号



ご入学おめでとうございます

2022年4月6日(水)に、本校は、第4期生となる72名の新入生を迎え、令和4年度東京農業大学稲花小学校入学式を無事に挙行することができました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止を第一に考えた入学式でしたが、各家庭から1名の参加をお願いした保護者、教職員、そしてご来賓の皆様をお迎えし、新入生のかわいい笑顔をみることができました。来賓としては、学校法人東京農業大学理事長 大澤貫寿先生、学校法人東京農業大学初等中等教育部統括校長 金田喜明先生、東京農業大学稲花小学校教育後援会会長 徳丸洋一様に、ご登壇いただきました。大澤理事長および徳丸教育後援会会長には、ご祝辞を賜って、式次第に掲載いたしました。

新入生は、学級のお友だちや担任の先生に初めて会い、慣れない教室ではやや緊張した面持ちでしたが、体育館で行われた入学式での呼名にはそれぞれが元気な声で答えることができました。校長式辞では、お祝いの言葉とともに、教室だけでなく農大稲花小で体験するすべてが楽しい勉強であるということをお話ししました。さらに、今までできなかったことや初めてで難しいことも勇気を出してやってみること、分からないことがあれば質問すること、自分の考えをしっかりと話すことも農大稲花小での冒険であり、冒険のためには勉強をして準備をすることや強いところやからだを持つことが大切であるという話もいたしました。とくに保護者の皆様には、学校法人東京農業大学の大きな支援のもと、また東京農業大学が今まで培ってきた多様な教育資源を活用して、冒険心をもって、科学的、実践的に学ぶ子どもを育むよう、教職員一同が心して取り組む決意であることをお伝えしました。

凛々しい制服姿の新入生が、これからの6年間の農大稲花小での学びを通して、本校の教育理念「冒険心の育成」に基づき、「冒険心」をしっかり身に付けてくれるものと楽しみにしています。

お祝いの品々

入学式の日、新入生は新しい教科書や教材を担任から受け取りました。そのほか、記念品として、かわいいイラスト入りで農大稲花小の理念や校歌が紹介された「東京農業大学稲花小学校の本」やお米三兄弟の描かれた東京農大エコバックも配布されました。校歌である「東京農業大学稲花小学校の歌」は谷川俊太郎先生の作詞、谷川賢作先生の作曲になるものです。また、東京農大マークとみのりマークの入った特別な紅白饅頭(群馬県だんべい本舗風間堂製)も受け取りました。そのほかにも、東京農業大学連合教育後援会のご提供により東京農業大学が地域連携している長野県木祖村産ひのき製のお箸と箸袋、東京農業大学の連携企業の一つであるアルファード食品株式会

社ご提供のお赤飯、さらに同じく東京農業大学の連携企業の一つであるキューピー株式会社より「からやぶりキューピーマスコット」を頂戴しました。加えて、東京農業大学創立130周年記念誌「学祖群像 東京農業大学の偉人たち」を配布することができました。この記念誌は、東京農業大学の創設者であり日本の近代化にも貢献した榎本武揚、東京農業大学初代学長で近代農学の祖と呼ばれる横井時敬、日本の博物館・博覧会の父であり東京農業大学の前身である東京高等農学校の初代校長でもあった田中芳男の三名を、わかりやすく紹介したものです。ご家庭でも児童と子どもとともに、ご高覧いただき、保存していただくようお願いします。

困難な時期ですが、今日の日のうれしい思い出の品、思い出の味となりますことを願っています。またご高配を賜った団体・企業の皆様には心から御礼申し上げます。

始業式

4月7日(木)は始業式でした。2019年4月にスタートした農大稲花小も、入学式で第4期生を迎え、1年生から4年生までがそろいました。始業式の日、昨年度よりさらに学校が賑やかで、子どもたちの声が響いていました。中には、自分の靴棚が見つからなかったり、教室を間違えそうになったりする子どももいましたが、それぞれが新しい学年、新しい学級で、新しい友だちや担任団(担任、学年担任)の先生と、新しい気持ちで新学期を迎えました。

まず、校内テレビ放送を使い、始業式が行われました。教室で視聴する子どもたちに校長からは、どの学年の友だちとも仲良く、いたわりあいながら過ごすこと、新しい気持ちで新学年を迎え、良いところは伸ばし、苦手なことやよくないところは新しい気持ちで取り組むように伝えました。その後、画像を使って新任の先生3名と英語の先生の紹介をいたしました。

本年度は、新3年生、新4年生ではクラス替え、また、全部の学年で担任交代も行われました。大きな変化の中での新学期です。子どもたちのところが安定し、友だちと遊んだり、勉強に取り組んだりできるよう、注意深く見守ってまいります。ともすれば「勉強」がまず心配になりますが、マナーを含め生活習慣がきちんとできていることがすべての土台です。落ち着いた生活ができる子どもは、豊かな人間関係を築くことができ、学校での勉強にも集中できると考えています。本年度も、保護者の皆様のご協力をいただきながら、農大稲花小の一人一人の子どもを大切に育ててまいります。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子